

第1部 はじめに(概要)

1 区民の皆様へ ～ 平成19年度の取組と財政状況について ～

荒川区では、平成19年3月に策定した基本構想において、目指すべき将来像を「幸福実感都市あらかわ」と定め、すべての世代の区民が幸せを実感できるまちを目指し、行政サービスの充実に全力で取り組んでいます。

平成19年度の取組については第2部の財務報告の中で詳しく説明いたしますが、主要な事業について分野別にいくつかご紹介します。

生活インフラ・国土保全の分野においては、都市計画道路補助第306号線等の整備や、南千住、日暮里、三河島地区における市街地再開発事業を推進しました。

教育分野においては、学校図書館指導員の全校配置や、幼稚園・保育園を一体化した汐入こども園の整備、汐入図書サービスステーションの新設など施策の充実を図りました。

福祉分野においては、要介護者の地域での生活を支えていく「地域密着型サービス事業所」の整備を行う事業者に対する助成や、「荒川ころばん体操」「荒川せらばん体操」の普及、障がい者の就労支援・離職防止等のためのコーディネータの配置などを進めました。

子育て支援分野においては、南千住保育園の移転・改築への着手や、認証保育所保育料の一部補助、全児童対策である「放課後子どもプラン事業」のモデル実施、多胎児家庭に対するタクシー券の支給などの「ツインズサポート事業」の新設などを行いました。

保健衛生分野においては、女子栄養大学のご指導のもと、区内飲食店のご協力を得て「あらかわ満点メニュー」の開発を進めるとともに、健康応援店の拡大や受動喫煙防止対策の充実などにより、区民の健康的な生活習慣づくりを支援しました。

環境清掃分野においては、環境活動の拠点となるエコセンターの整備や、エコ助成の充実、集団回収モデル事業の拡充などの取組を進めました。

産業振興分野では、荒川版クラスターの形成を目指すMACCプロジェクトの推進、「店主の顔が見える商店街」の復興を図る商店街ルネサンス推進事業などを引き続き推進しました。

そのほか、廃止された交番の建物を区が管理する安全・安心ステーションの設置や、区内各家庭への住宅用火災警報器の配布などを実施しました。

紹介したのはほんの一部の事業ですが、「区政は区民を幸せにするシステムである」という区のドメインのもと、区民ニーズに的確に対応した様々な取組を行ってきた結果、平成20年度に実施した区政世論調査では、幸せだと思ふと答えられた区民の割合は76%という結果となっております。また、平成20年に実施された日本経済新聞社等による行政サービス調査では、総合で全国4位、教育分野では全国1位、子育て環境分野では全国2位という高い評価をいただきました。併せて実施された行政革新度調査でも、全国14位という評価をいただいております。

今後も安定した区民サービスを提供していくための前提条件となる区の財政状況については、平成19年度末の資産総額が前年度から23億円増の2,584億円となる一方で、負債総額は33億円減の455億円となっており、将来世代の負担の割合は低くなっています。資金収支では、プライマリーバランス(基礎的財政収支)は17億円の黒字となっています。さらに、財政の弾力性を示す経常収支比率は76.9%と、16年度以降4年続けて適正水準である70%台を維持しています。財政健全化指標においても、すべての指標が早期健全化基準を大きく下回っており、財政状況の健全性が数値として表れております。

今後とも、「幸福実感都市あらかわ」の実現に向けて、行政サービスのさらなる充実に図るとともに、行政評価システムや新公会計制度など様々な手法を用いて、その礎となる財政基盤がより強固なものとなるよう努力するとともに、これらの情報を、本報告書などにより、区民の皆様によりわかりやすく提供してまいります。

荒川区長 西川 太一郎

2 一目でわかる荒川区(プロフィール)

(1) 地勢と人口

荒川区は東京 23 区の東北部に位置しており、広さは 10.20 km²で 23 区中 21 番目です。

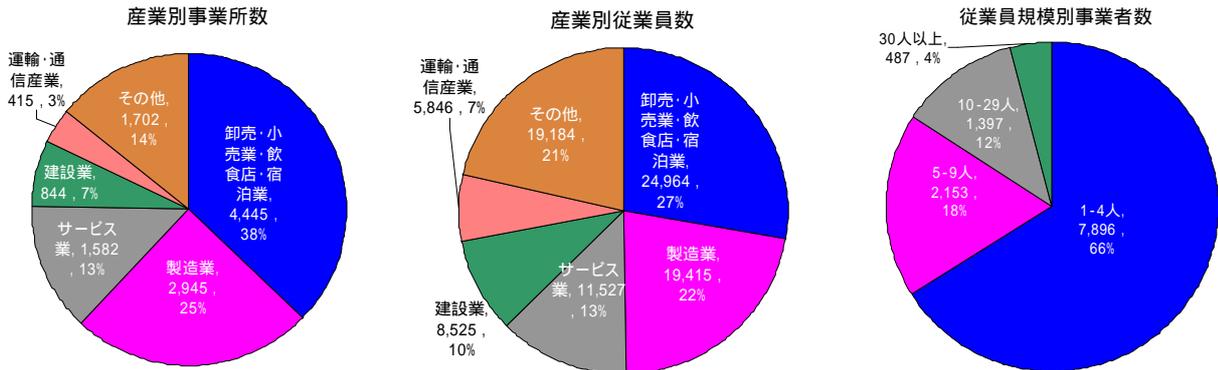


(人口等)

平成21年3月31日現在

人口総数 (A)+(B)	住民基本台帳			外国人 登録人 (B)	面積 (C)	人口密度 ((A)+(B))/(C)
	世帯数	人口				
		総数(A)	男性	女性		
201,080人	93,134世帯	185,112人	92,675人	92,437人	10.20km ²	19,714人/km ²

(2) 産業構造(平成 18 年 10 月 1 日現在) 資料:東京都総務局「平成 18 年度事業所・企業統計調査報告」



(3) 財政状況(平成 19 年度普通会計)

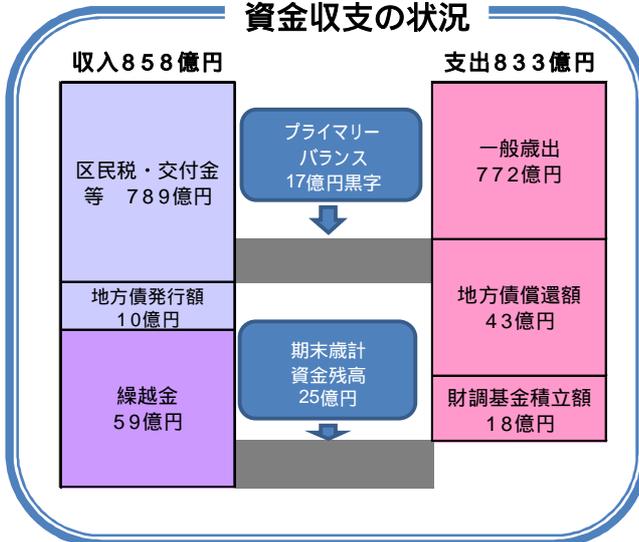
貸借対照表で説明すると以下のような状況であり、左側が資産を、右側がその財源等である負債や純資産を現しています。



また、以下では資金収支、純資産、行政コストの状況を表し、さらに区民1人当たりには換算した金額を表示しています。

平成19年度の状況(平成20年3月31日現在)

資金収支の状況



行政コストの状況



純資産変動の状況



区民一人当たりの状況

